

vol.19  
2025.5

地域医療連携だより

# かまんざ



② 院長のごあいさつ

退任 小林 裕／就任 魚嶋 伸彦

③ 副院長・事務部長就任のあいさつ

副院長、地域医療連携・入退院支援室室長、脳神経内科部長、脳卒中センター長 永金 義成  
事務部長 浅山 尚紀

④ 看護部長・院長補佐・眼科新任部長就任のあいさつ

看護部長 石野 嘉佳子／院長補佐・消化器内科部長 宇野 耕治／眼科新任部長 濵井 洋文

⑤ 赤十字フェスタ in kyoto 開催報告

⑥ トピックス、お知らせ

当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ

地域医療連携係 TEL 075-212-6186

平日 8:30~19:30  
土曜日 9:00~13:00

## 退任にあたって

2025年3月31日をもって定年退職させていただきました。地域の関係者の方々には、お世話になりました。

2017年4月に病院長に就任、赤十字病院として災害医療に注力するとともに、日常診療では地域医療構想のもと高度急性期病院に特化した体制に移行、救急・がん診療・特殊専門医療を3本柱に、地域の中核病院として頑張ってきました。今後もさらに地域の医療機関、介護機関様と連携を密にし、この地域の医療に貢献していきますので、引き続き当院をよろしくお願いいたします。

在任中には、脳卒中ケアユニット(SCU)の開設、小児単独病棟を閉鎖削減し小児入院の混合病棟化、働き方改革や高度救命救急センターの指定など、いろいろなことがありました。何といっても、2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の流行、対応に苦慮しました。しかしながら京都府はじめ医療関係者様の連携・協力により、コロナ診療においても一定の役割を果たせたと自負しています。

## 京都の中心で100年— 地域とともに歩む信頼の医療、そして未来へ

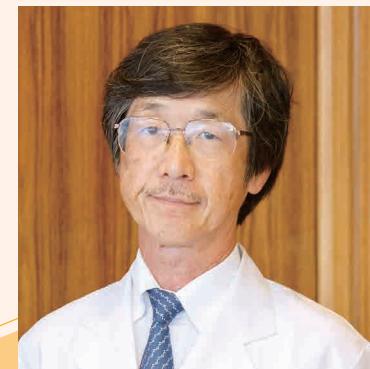
平素より当院の医療活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、2025年4月1日付けで院長を拝命いたしました魚嶋伸彦です。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

当院は、大正15年に日本赤十字社京都支部療院として開設され、来年で開院100周年を迎える運びとなりました。これまで、地域の皆さま、そして近隣医療機関の皆さまの多大なるご支援のもと、「信頼される医療の提供」を使命に歩んでまいりました。

「歩みに入る人にやすらぎを、帰りゆく人に幸せを」という病院理念のもと、患者さん一人ひとりに寄り添い、安全で質の高い医療を提供すべく、全職員が一丸となって日々の診療にあたっております。

現在当院では、高度急性期医療を担う基幹病院として、救命救急やがん医療をはじめ、多岐にわたる専門領域において先進的な医療を実践しております。特に救急医療においては、高度救命救急センターを設置し、24時間体制で重篤な患者さんの受け入れを行っております。また、災害医療



院長退任

小林  
裕

当院は施設の老朽化が著しく、京都府の中心であるこの地で「安全で質の高い医療を継続して提供する」ためには、新病院建設が必須です。幸い、北に隣接する京都府警移転跡地を京都府から借入できることが2024年5月に決まり、この2月に赤十字本社から新病院建設の承認も得られました。今、基本設計を進めているところですが、後任の魚嶋伸彦新院長に今後を託し、私は新病院完成を楽しみに応援したいと思っています。

皆様には感謝しかありません。本当に8年間ありがとうございました。



院長就任

魚嶋  
伸彦

においても積極的に取り組み、地域に根ざしながら、社会全体の医療体制の強化に貢献してまいりました。

地域医療支援病院として、先生方との連携は、私どものにとって何よりも重要なものと考えております。紹介受診から入院・治療、さらには退院後のフォローアップに至るまで、切れ目のない診療体制の構築をめざし、情報の共有と連携強化に努めております。

医療は日進月歩で進化しております。当院では常に新しい知見と技術を取り入れながら、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりに尽力しております。今後も、地域医療の一翼を担う医療機関として、先生方との連携のもと、地域住民の健康と命を守るために医療を提供してまいります。

引き続き、変わらぬご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 副院長・事務部長就任あいさつ

### 副院長(地域医療連携・入退院支援室室長) 就任のご挨拶

このたび副院長を拝命した永金義成です。地域医療連携・入退院支援室を担当することになりました。病診・病病連携で日頃よりお世話になっている先生方ならびに関係者の皆さまにおかれましては引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

さて、私は1995年に大学を卒業して以来30年間、脳神経内科医として脳卒中診療を中心とした臨床神経に携わってまいりました。救命救急センターを舞台にした脳卒中の急性期治療に加えて、特にこの10年間は脳梗塞患者の長期再発予防に力を入れてきましたが、かかりつけ医の先生方との連携をこれまで以上に深めることができたと感じております。

こうした経験から学んだことは、疾患は急性期に始まるものではなく、生活期に生じて生活期に戻る途中の一過程として急性期が存在するということです。昨年4月に高度救命救急センターに指定された当院は、より高度な救急診療を24時間体制で行う役割を担っておりますが、地域の医療機関との連携があつてはじめて地域住民の方々への安心につながるものと確信しております。

また、一般外来へも数多くのご紹介をいただきしており、地域の医療機関の先生方には感謝申しあげます。診療情報の共有、逆紹介の推進、医療機器の共同利用などを含め、引

ま  
ま  
ま



#### 所属学会認定資格

- 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医
- 日本神経学会 神経内科専門医・指導医・代議員
- 日本脳卒中学会 脳卒中専門医・指導医・代議員
- 京都府立医科大学 臨床教授



き続き地域医療支援病院としての役割を果たせるよう努めてまいります。

これまでの臨床経験を活かして、今後は副院長として病院全体の運営に貢献し、また、地域医療連携・入退院支援室室長として地域の先生方との連携をさらに深め、地域住民の皆さまに質の高い医療を提供できるよう、微力ながら尽力してまいります。

今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申しあげます。

### 地域住民に安心した医療が提供できるよう 地域医療連携の活動を推進

2025年4月に事務部長に就任しました浅山です。

この春、永らく勤めた京都府を退職し、新たに京都第二赤十字病院の一員として働くこととなりました。

京都府では、新型コロナウイルス感染症のまん延時には、健康福祉部副部長として、多くの地域医療機関の皆様方の御協力をいただきながら、感染予防や医療確保などのさまざまな対策を進めてまいりました。

本院は、新病棟の建て替えを控え、さらなる機能充実を図り、経営改善を進めていくためにも、地域医療機関の皆様との連携をより一層深めていくことが不可欠であると考えています。



今後とも、地域の医療を支え、地域に根差した京都第二赤十字病院として、しっかりと役割を果たせるよう精いっぱい頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。





## 看護部長・院長補佐・眼科部長就任のあいさつ

### 看護部長就任にあたって

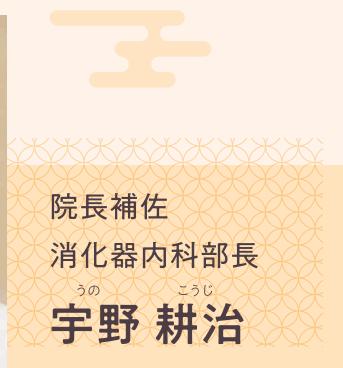
日頃は、多くの患者さんのご紹介および受け入れにご協力いただき、誠にありがとうございます。2025年4月1日に看護部長に就任いたしました、石野嘉佳子（いしのかよこ）と申します。

看護部門では、患者さんお一人おひとりの思いを大切にし、それらを途切れさせず、つないでいく看護を目指しています。昨年度は、「思いをつなぐプロジェクトチーム」を立ち上げ活動を始めました。患者さんやご家族の思いや大切にされている価値観をどのように捉えるか、またその思いを部署内

看護部長  
いしの かよこ  
**石野 嘉佳子**



から部署間、そして地域へと切れ目なくつなぐにはどうしたら良いか、今後も考え続け実践していきたいと思います。当院に入院される患者さんを「点」で捉えるのではなく、入院までの生活から入院中、退院後の療養生活を「線」で捉えながら看護を提供できるよう、全看護職員で取り組んでいきます。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。



院長補佐  
消化器内科部長  
うの こうじ  
**宇野 耕治**

### 所属学会認定資格

- 日本消化器病学会指導医
- 日本消化器内視鏡学会指導医
- 日本脾臓学会認定指導医
- 京都府立医科大学臨床教授
- 日本内科学会総合内科専門医・指導医

### 幅広い眼科疾患に対し、最善の医療を提供し、この地域の医療関係者の皆様に信頼される眼科を目指したいと考えています。

2025年4月より眼科部長を拝命いたしました。網膜硝子体疾患が専門の小嶋前部長が退任しましたが、引き続き宮谷医長が網膜上膜、黄斑円孔などの網膜硝子体手術を担当いたします。白内障手術は宮谷医長をはじめ、若手の医師が担当いたします。安全で丁寧な手術を心掛けたいと考えておりますので、御紹介いただけましたら幸いです。私はぶどう膜炎および加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症などが専門ですので、該当する疾患の患者様がおられましたら御紹介いただけましたら幸いです。ぶどう膜炎に関しては原因の検索、硝子体手術、生物学的製剤の導入等治療に関し

### 院長補佐就任の御挨拶

このたび、2025年4月より院長補佐を拝命いたしました消化器内科部長の宇野耕治と申します。地域の医療機関の先生方におかれましては平素より消化器疾患症例を御紹介いただき、当科精査加療後の症例を受け入れていただき誠にありがとうございます。

当院は高度救命救急センター併設、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院として、救急、がん症例をはじめとした地域の患者さんの診療にあたっておりますが、今後は病診連携の推進をはじめとして、新棟建設などの当院の諸課題に対して取り組んでいきたいと考えております。引き続き御指導・御協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。



眼科部長  
しづい ひろぶみ  
**瀧井 洋文**



### 所属学会認定資格

- 日本眼科学会 眼科専門医

ても対処させていただきます。黄斑疾患に関しては抗VEGF抗体の硝子体注射など検討させていただきます。また、外来の予約を改善して、多数の患者様を御紹介いただけるように工夫してまいります。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。



# 赤十字フェスタ in Kyoto を開催しました



2025年3月1日、2日にイオンモールKYOTOにて京都府支部、京都府赤十字血液センター、京都第一赤十字病院、当院合同で赤十字事業等への理解促進と地域医療機関との連携強化を目的に「赤十字フェスタ in Kyoto」を開催いたしました。多くの市民の皆様や子どもたちに楽しんでもらえるように、さまざまなブースを設けました。例えば、健康チェックブースでは肌年齢計や骨ウェーブ、体成分分析装置in Bodyを設置し、子ども向けブースでは当院小児科医師によるクイズや救急法(胸骨圧迫・AED)などを体験してもらいました。

1日目は吉本興業所属の人気お笑い芸人“牛ペペ”をお招きして「笑って免疫力を高めましょう!」と題して漫才を披露いただき会場内は笑いにつつまれました。2日目は当院腎臓

内科医師による健康セミナーの他、スペシャルゲストとして元ラグビー日本代表 田中史朗氏にご講演いただきました。

2日間で約650名の方に来場いただき盛況のうち無事に終えることができました。多くの地域住民の方へ赤十字事業の理解と支持を一層深めていただけたのではないかと思います。

最後になりましたが本イベント開催に際して京都大原記念病院様には多大なるご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。



吉本興業 牛ペペ  
「笑って免疫力を高めましょう!」

元ラグビー日本代表  
田中 史朗氏  
「ONE TEAM~  
感謝のこころ~」



フォト  
ブース

白衣着せて  
もらったよ



お子様向け  
ブース

う~ん、どれが  
正解かな?



チャレンジ!けんけつクイズ

白衣を着て  
AED体験



けんけつちゃん  
ぬりえ



あっさな  
ハートラちゃんだあ



# 症例検討会を実施しました

2025年3月13日(木)にホテルモントレ京都にて症例検討会を開催しました。

多くのご参加ありがとうございました。



▲消化器内科 吉本 隆晃



▲整形外科 阪田 宗弘



▲循環器内科 西村 哲朗



▲血液内科 江頭 文

- 「進行癌の一例」  
消化器内科 吉本 隆晃
- 「脊椎・脊髄外科を紹介受診後、他科での加療を要した2例」  
整形外科 阪田 宗弘
- 「心電図から隠れ心筋梗塞を見つけよう」  
循環器内科 西村 哲朗
- 「M蛋白は語る～日常診療に潜むM蛋白疾患～」  
血液内科 江頭 文



## お知らせ

### ◆ 病病・病診連携懇話会を開催します

今年度の病病・病診連携懇話会を下記日程で開催しますのでご参加をお待ちしております。

詳細は追って案内しますのでご確認ください。

**日 時** 7月10日(木) 15:00～懇話会 17:30～懇親会

**場 所** ホテルオークラ京都

### ◆ ~SAKU洛連携システム~ CT、MRI、骨密度などの検査予約が可能となります



開始時期などの  
詳細は後日  
トップページに  
案内させて  
いただきます

